



# あゆみ

No. 157

令和 2年12月15日発行

編集 発行：社会福祉法人 啓明会 茗山寮・第二茗山寮  
〒863-0006 熊本県天草市本町下河内 680  
TEL 0969-22-5339・0969-22-1766 FAX 0969-22-5090  
E-mail reizanryou@miracle.ocn.ne.jp・reizan2@muse.ocn.ne.jp  
社会福祉法人啓明会ホームページURL <http://keimeikai.amakusa-web.jp/>  
施設の旬の話題を「レイザンTOPIX」にて更新中です。



## 創立53年を迎えても 変わらない皆の大事な笑顔



### 「支援の見直し（食について）」

施設長 鮎田 一夫

令和二年もあと僅かとなり、皆様もお忙しい毎日を送られていることと思います。茗山寮・第二茗山寮も例年でしたら利用者さんの間では帰省の話がちらほら聞こえ出す頃ですが、今年は新型コロナウイルスの為に先の見通しがたらず、利用者の皆さんにも心配をおかけしています。去年の今頃、今年のこの状況を予想することは全くできませんでした。世の中は本当に何が起きるか分からないのだとつくづく思います。

しかし、今年度はさらに「食」をレベルアップするために何をすればよいか、タブーを排して考えようというところから始めました。未だ途中ですが、今までに取り組んだことは食事時間の試行と一人ひとりについての細かい見直しです。その項目は食分量、食形態、とろみの必要性、食器類（箸、スプーン類、介護食器）、座席、エプロンの有無、食台の有無、椅子・机の高さ、座位保持について、その他と実に十二項目に及びます。

さて茗山寮・第二茗山寮では昨年度から支援の見直しを進めています。今年には特に「食」についてそれを行っています。利用者さんの食を色々な角度から見直そうという試みです。「食」は人の生存には必須のもので、同時に大きな楽しみでもあります。「食」を「文化」の域まで上げることができたのは人だけです。ここでも「食」を楽しむことは従来から沢山取り組んできました。毎月行っている調理実習、調理サークル、オープンカフェ、食育や、利用者さんからのリクエストを反映したメニューや新メニューの導入、行事食での工夫等です。また重度高齢化によって変化する利用者さんの食形態への対応、とろみ剤の工夫など、健康安全を図るための対応も都度行ってきました。

まずは各担当がそれぞれの項目について気が付いたことを書き、それについて支援主任、医師からの意見が書き込まれ、最終的に各施設での会議にかけられました。会議で結論が得られなかったことについては各担当に差し戻され、それぞれが浮かび上がった課題をある程度の時間をかけて解決していくこととなります。今年度中にできることもあるでしょうし、来年度の個別支援計画に反映されるものもあるでしょう。この作業は見事なPDCAサイクルです。「食の見直し」というテーマを皆で考えることを通して、「食」についての改善が進むと同時に、職員にPDCAサイクルのよい訓練ができたこと、また一人ひとりの利用者を中心に据えて支援、給食、医務が垣根を越えて話し合うことで職種を超えた共通理解が進んだことが思わぬ副産物でした。食事時間についてはまだ改善の途中ですが、皆の工夫でよりよい方向に持って行ければと思っています。

## 『事務所便り二〇二〇冬号』

管理課長 大塚 伸二



新型コロナウイルスに振

り回された令和二年もあと半月となり、事務所では年末調整の時期となりました。年末調整とは、ご承知のとおり、給与の支払いを受ける一人一人について、毎月の給料や賞与などの支払いの際に、源泉徴収した税額とその給与の総額について納めなければならない税額（年税額）とを比べて、その過不足額を精算する手続きで、給与の源泉徴収の総決算ともしうべきものです。大部分の給与所得者は、この「年末調整」によってその年の所得税及び復興特別所得税の納税が完了し、改めて確定申告の手続きをとる必要がないこととなるわけですから、この意味からも非常に大切な手続きです。

今年の主な改正点は、給与所得控除の十万円引き下げ、基礎控除（配偶者、扶養控除、勤労学生等）の十万円引き上げに伴い税額表の改正です。また、ひとり親控除及び寡婦（寡夫）控除に関する改正が行われました。年末調整は、一人一人の申告により税額計算を行いますので、申告漏れの無いよう情報提供を行っていききたいと思います。また、年金委員の研修会では年金制度改正等についての説明があり、短時間労働者への適用拡大、在職老齢年金制度の見直し（二八万円から四七万円）等労働者にとって明るい話もありました。年金の改正点についても、職員に良きアドバイスが出来るようにしていきたいと思えます。

## 『私の担当利用者さんへの取り組み』

支援員 元島 加良子



私は今年度三名の方の担当をさせて頂いています。どの利用者さ

んも個性豊かで且つ、奇想天外であり私を悩ませると同時に常に楽しませてくれる存在です。その中でも毎日関わりを求めて来られ、良くも悪くも毎日私をヤキモキさせてくださるKさんがいらつしやいます。Kさんは正義感が強く、人一倍几帳面な方です。又、相手が男性女性にも関わらず世話好きでいつも誰かの側に寄り添っておられます。ですが度が過ぎる事もあり口論に発展する事も屢々見られます。その都度仲裁に入りKさんを傷つけないような言葉掛けを必要とします。なぜかと言うと場合によっては「ヒステリー発作」を起こされる可能性があるからです。他にもKさんは食事に関してもご飯はおにぎりしか食べない、汁物は吸わない等、様々な拘りをお持ちです。それでもきちんとした食事、栄養を摂って頂きたいが為に、栄養士の方は献立表を個人的に本人が好まれる食材の名称を使い書き換えて下さっています。そのおかげで毎日しっかりと食事を摂る事が出来ています。只几帳面で世話好き等の性格が相重なり、周囲を気にしすぎて食事時間が長くなりすぎてしまう事があり、今後の課題です。Kさんは言葉一つで笑顔になったり、落ち込んだりと喜怒哀楽が激しく且つ繊細な方です。決して上から視線ではなく、付かず離れずの距離を保ち、接し方を微妙に調整しています。

現在コロナ禍の中、Kさんの唯一の楽しみであったお買物も出来ず、お母様との面会も出来ていません。この様々なストレスを解消して貰えるようなフレンドリーな関係を築いていきたいと思えます。

## 『私の担当利用者さんへの取り組み』

支援員 塩家 成美



私が担当させていただいて

いるKさんは、第二荅山寮に入所して二年が経ちます。入所当時は笑顔が素敵でおしゃべりが大好きな方でした。一年六か月前頃より不眠や他害などが続き、だんだんと笑顔が減り、言葉が出なくなりました。それからはよりたくさん関わりを持ち、声掛けやスキンシップを多くとるようにしました。棟外歩行や作業、活動を一緒に行うときに「鯉がいますよ。」「暑くないですか?」などと声を掛けても、表情が暗く顔も下を向き、反応を示してくれない日もありました。最近では以前よりも顔を上げ、目を合わせたりの領いたり、発語自体はありませんが意思を伝えて下さることが多くなっています。「○○好きな人?」と声を掛けたりすると、手を挙げて教えてくれることもあります。スキンシップで抱きしめたり声掛けしたりすると、表情が穏やかになったり、笑顔を見せてくれたりされ、こちらを笑顔にしてくれます。また以前は食べる意欲が無く食事が進まない日が多くありました。そこで小分けにしたり一口大のおにぎりにしたり、食事の環境を変えてみたりしました。すぐにはあまり変化がなかったのですが、今ではしっかりと食べて下さるようになりました。日によって表情や行動に変化はありますが、他の職員の皆さんや利用者の方々が沢山声を掛けてくださり、笑顔の時間が以前より増えています。今後もコミュニケーションを多くとり笑顔の時間が増えるように、寄り添った支援をしていきたいと思えます。

## 『実習地整備』



支援員 池田 隼人

九・十月に椎茸地の整備工事を行いました。

した。先の大雨で道の土が流され、土手は崩れ陥没した所もあったためです。そのため、大がかりな工事をする事を班で決定しました。また、入り口が狭いとの意見があり、ユンボ等を使い道幅を倍に広げました。それにより出入りがしやすくなったとの意見を頂きました。陥没した所は、溝を掘りコルゲート管を入れることで水が流れる道を作りました。また、U字溝を設置することで大雨被害の減少が見込めます。椎茸原木の本伏せ作業も行いました。



## 『服薬について』



支援課長補佐 橋口 敬

荅山寮・第二荅山寮では、合わせて約九十名の利用者の方

が生活していらっしゃいます。その中の九割以上の方が何らかの薬を服用されており、施設で保管し毎日服薬の支援を行っております。年々、高齢化に伴い薬の量が増え、効き目の強い薬へ移行される方も多くなって来ていらっしゃると思います。その様な中でいかに安全に服薬支援が出来るかが、とても重要な事だと思えます。精神薬を飲まれている方も多く、一回の服薬ミスが、体調不良や精神面に不安を呼び起こす原因になる事もある為、特に慎重さを必要としています。

マニュアルを励行しながら二重三重のチェックを行い、服薬前後に声を出しての指差し確認等を行い、服薬ミスがないように日々取り組んでいます。しかし、それでも完全ではなく服薬ミスはなくなりません。そこで、特に服薬に於いて問題が見られる人達のチェックリストを作成し、飲ませ方や飲ませるタイミング等を検討しながら、一ヶ月程前から実施しております。

それにより、更に服薬に集中出来るようになったと感じておりますが、どんなに対策を増やしていったとしても、結局は人が行っている事であり、我々職員の一入ひとりの意識付けがとても大切だと思われま。只々、形だけの服薬確認に止まっていないか再度考え直し、色んな所に気を配りながら、職員の服薬に対する意識を高めていければと思っております。

## 『利用者の方の声に耳を傾ける』



管理栄養士 長嶋 さおり

今年重点目標のひとつに『利用者の方の声に耳を傾ける』があり、

給食では『リクエストメニューの充実』という目標を掲げました。毎月数十種類のリクエストをできるだけ日頃の献立に反映させています。その中で、ある利用者の方から「バーベキューみたいな焼肉が食べた」という要望がありました。以前は、荅山寮でもバーベキューをしていましたが、重度高齢化に伴い徐々に全員で実施するのが難しくなってきました。

そこで、利用者の方の状態に合わせて三つのグループに分けて実施する計画を立てましたが、新型コロナウイルスのリスクレベルが高まる中、皆が一同に会してのスタイルは感染リスクが高まる事から断念しました。しかし、どうにかして温かくて美味しい焼肉を提供したくて、焼き始めも逆算して百三十人四五キログラムの肉と四百本のワインナーを炭火で焼き、ランチボックスに詰めて提供してみました。初めてのランチボックスでの焼肉は、普通にお皿に盛り付けるより見た目も新鮮で味も格別で、利用者の皆様から「おいしかった〜！またしてね！」という嬉しい言葉をいただきました。

リクエストしてくださった利用者の方も「おいしかった〜！肉のいっぱいあってお腹いっぱいになった！」と満面の笑顔で言ってくれました。これからは集団給食という制限の中で、どうしたらリクエストを実現できるか、給食はじめ職員全員で取り組んで参ります。



# 苓秋祭（秋祭り）

10月23日に苓山寮・第二苓山寮合同で秋祭りを開催致しました。名称を苓秋祭に変更し、出店では肉うどん、フランクフルト、たこ焼き、から揚げ、かき氷、ジュース、ビールを提供しゆっくりとした時間を過ごして頂きました。射的やヨーヨー釣りではしっかりと狙いを定めて景品を手にしておられました。ステージでは利用者さんによるカラオケ大会が行われ、素敵な歌声を披露して頂きました。若干肌寒い気候ではありましたが、楽しい時間を過ごして頂きました。



「苓秋祭！スターティン！！」



「うんめえなあ！！」



「いよっ！名司会！！」



「心に染みるぜ・・・」



「当たれえ！！！」



「スペシャルゲストの登場です♡」

# 創立記念交流会（53回）

毎年創立記念日は、地域の方やボランティアの方々や保護者の皆さんをお招きして開催していましたが、今年は新型コロナウイルス感染症の影響で施設内での開催となりました。ハンドベルやダンス、手話を使った歌など茶山寮と第二茶山寮の利用者と職員による出し物があり、利用者と職員が1つとなって楽しむことができました。これからも利用者が楽しめる企画などを提案していければと思います。



「はじめま〜す！！」



「練習の成果を発表☆」



「今夜だけでも〜〜♪」



「綺麗に奏でます♪」



「縄跳びダンス♡」



「みんなで楽しいね！！」

みんなで一日一日を楽しく大事に過ごしていきましょう。

【新利用者紹介】

早瀬 勝徳さん(第二苓山寮)



十一月九日より第二苓山寮を利用して頂いています。お友達を沢山作っていただき、これから楽しい時間を過ごしていきましょ。よろしくお願ひします。

【退所利用者紹介】

市村 匡稔さん(苓山寮)

十月十八日に退所されました。市村さんのこれからの健康とご活躍をお祈りしています。

宮崎 敏次さん(第二苓山寮)

十一月三十日に退所されました。宮崎さんの今後のご健康とご活躍をお祈りしています。

総合防災訓練

支援副主任 菊地泰博

十一月十一日、苓山寮及び第二苓山寮で総合防災訓練を実施しました。例年であれば、啓明会全体で消防職員を招いて訓練を行っていましたが、コロナ禍のため二施設のみで行いました。今回の消火訓練では、初めて屋内散水栓を使用し、当日の出勤者には水圧を体感して貰いました。「思ったよりも勢いが凄かった」等の感想も聞かれ、良い経験となりました。また外では、年一回の炊き出し訓練も同時進行で実施。今回のメニューはご飯とすいとん。回数を重ねる毎にスキルもアップし、着火から仕上がまでスムーズに調理できました。



利用者の風景

小山 智和さん(居室の改造)

今年にはコロナの影響も有り、お部屋で過ごして頂かなくてはいけない状況も多く、外泊が大好きな智和さんにはとてもストレスの掛かる時間を過ごしていただいています。そこで、せつかくお部屋で過ごす時間が沢山あるなら、もっと快適なお部屋を作ろうと、二人で取り組み始めました。まずは、書き物をするときに必要な机と椅子。その次は、テレビをゆくり観るためのソファ。そして寒くもなってきたので、こたつを購入して使っていたので、コロナ禍で中々外に出られる機会を作れませんが、お部屋の雰囲気を変えるだけでも新しい発見や気分転換に繋がるみたいです。



菅原 道正さん(紙ちぎり)

私が担当している菅原道正さんは、今年度で八二歳になられました。そんな菅原さんの日課は紙ちぎりと歩行活動です。紙ちぎりはご本人がとても好まれており、手が空いていれば職員へ「紙ばくれな」と話されています。また、ご本人は良く「人間の足は弱かな」とも話されており、職員から「足を鍛えるためにも頑張つて歩きましょう」と伝えると「分かった」と話され、歩行器を使いながら、職員と共に毎日歩行活動に精を出しておられます。今後も怪我や体調に気を付けて、暮らして頂けるよう支援して参ります。



お祝い

苓山寮の中原愛支援員(旧姓山崎)が入籍されました。おめでとうございます。幸せな家庭を築いてください。



行事予定

(変更あり次第、連絡します)

十二月

- 二四日 クリスマス会
- 二五日 もちつき・オープンカフェ
- 二九日 御用納め

二〇二一年

- 一月 一日 レクレーションの日
- 四日 御用始め
- 五日 えがおの会
- 八日 鬼火焚き
- 二六日 第五回管内研修

二月

- 二日 えがおの会
- 三日 節分豆まき
- 二四日 亀小駒打ち

編集後記

師走を迎え、早いもので一年が終わりを迎えようとしています。皆様にとっては今年一年はどんな年になりましたか。振り返ってみると豪雨災害、新型コロナウイルス感染症の流行、夏期オリンピックの延期などがあり、利用者の皆さんや御家族の方々にとっても大変な年だったと思います。まだまだ新型コロナウイルス感染症は猛威を振るっていますが、施設内でイベントを開催し、支援員一同が全力で楽しむことで、利用者の皆さんにも心から楽しんでいただけるように取り組んでいきます。二〇二一年が皆様にとって、希望に満ちた明るい良い一年になりますように心より祈っております。

